

ナデシコ



■ナデシコのプロフィール

学名 : *Dianthus*

科名 : ナデシコ科

分類 : 宿根草、一年草

原産地 : 地中海沿岸、ヨーロッパ、アジア

ナデシコの仲間には世界の広い範囲におよそ300種が分布し、日本にも数種類が自生します。毎年花を咲かせる多年草が多いですが、花後に枯れる一年草もあります。色々な種同士を掛け合わせて作られた園芸品種がたくさんあります。カーネーションもナデシコの仲間なのですが、園芸では一分野として確立されており、別物として考えるのが一般的です。

タネから育てやすいナデシコとして「ヒゲナデシコ」という種類があります。草丈約60cmの切り花に向く高性の品種で、株元から5~8本の枝を伸ばし、先端の花房は約10cmの大きさになります。赤、桃、白、蛇の目などの変化に富んだ花色の混合です。ヨーロッパ南部原産の耐寒性1年草で、花芽分化に低温が必要です。寒い地域では初夏、暖かい地域では秋にタネまきをして翌年の春に開花します。

■ナデシコの育て方

●タネまきについて

寒い地域では春から初夏のころ、暖かい地域では秋風が涼しく感じられるころが、タネまきの適期です。種まき用土の上に、タネが重ならないようにバラまきにして、薄く2mmほど土をかぶせ、たっぷり水をやりします。気温が高い時期のタネまきは発芽が悪く立枯病の原因になるので、発芽まで涼しいところで管理します。

本葉が2~3枚になったころ、培養土を入れた黒ポリポットに植え替え、日当たりと風とおしのよい場所で水を控えめに管理します。植えつけの際には、日当たりと水はけのよい場所に植えてあげます。

●育て方のポイント

日照を好み、水はけのよいところが適します。少なくとも半日以上は日光がよく当たるところで、蒸れないよう風通しをよくしておくことが大切です。耐寒性の強い多年草が多いのですが、高温期の多湿に弱く、また古株になるほど生育は衰えてきます。タネやさし芽で数年ごとに株を更新していくのがよく、そのため、品種によっては一年草扱いとされています。種類や品種によって、草丈の高低や株の広がり方、性質の違いがあるので、場所や用途に応じて選ぶようにしましょう。梅雨期の蒸れや、夏越しに備えて、切り戻しを行います。草丈の高いものでは、花が終わった茎を順次、株元近くで切り取ります。草丈の低いものでは、開花が一段落したら半分くらいの高さまで刈り込みます。四季咲き性の品種も、梅雨前に刈り込んで地際近くから新芽を吹かせると、秋の花つきや見栄えもよくなります。

